

第34次 第4回
宮城県社会教育委員の会議
会議記録

平成28年12月21日(水)

宮城県教育委員会

第34次（第4回）宮城県社会教育委員の会議 記録

- 日 時 平成28年12月21日（水） 午後1時30分～
- 場 所 宮城県行政庁舎 1002会議室
- 出席委員（11名）
 - 相澤委員 齊藤委員 坂口委員 佐々木淳吾委員
 - 佐々木とし子委員 澁谷委員 鈴木孝三委員 鈴木正博委員
 - 田中委員 千葉委員 星山委員
- 欠席委員（4名）
 - 伊勢委員 杉山委員 中路委員 星委員
- 事務局 菅原社会教育専門 山田生涯学習振興班長 成瀬社会教育推進班課長補佐 石塚協働教育班長 吉田社会教育支援班課長補佐 遠藤社会教育支援班主幹

（司会；上原社会教育支援班長）

・皆様、こんにちは。定刻よりも早くお集まりいただきまして、ありがとうございます。ただいまから、第34次 第4回 宮城県社会教育委員の会議を開会いたします。

情報公開条例第19条によりまして、県の付属機関の会議につきましては原則公開となっております。本会議につきましては公開により審議を進めさせていただきます。

本日は、伊勢委員、杉山委員、星委員、中路委員より、欠席との連絡が入っております。

それでは、早速、議事に入らせていただきます。以降の進行につきましては、議長にお願いいたします。では、よろしくお願いたします。

（澁谷議長）

・皆さん、改めまして、こんにちは。カレンダーを見ると、今年も残すところあと10日になってまいりました。ただ、今日は御覧のとおり冬とは思えないような、希有な暖かい一日でございますが、「いや、夜は寒くなるよ」というお話も出ております。

それはそれとしまして、この会議も早いもので本日が第4回ということになりました。これまでは委員の皆様からさまざまな御意見をいただき、表現はあまりよろしくありませんが、風呂敷を広げてきた状況かと思えます。これまでたくさん貴重な御意見を賜りましたことを、感謝申し上げたいと思えます。

今日は4回目ということで、テーマ設定ということが掲げられております。風呂敷を少しずつ畳み始めて、ひとつの方向性に向きを整えていく会になってほしいと考えておりますが、大変なエネルギーが必要かと思えます。委員の皆様方からさまざまな前向きな御意見を頂戴し、少なくともテーマ設定の前段階のところまで進めることができれば大変有り難いと思っておりますので、本日もよろしくお願いたします。

それでは、本日の会議の議事録署名委員2名を指名させていただきます。第4回の議事録署名委員につきましては、鈴木正博委員と田中委員をお願いいたします。

次に、傍聴人の取り扱いについて御説明申し上げます。

本会議の傍聴につきましては、審議会等の会議の公開に関する事務取扱要綱が定められております。本日の傍聴希望者について御報告いただきたいと思っております。

(事務局；上原社会教育支援班長)

- ・本日の傍聴希望者はありません。

(澁谷議長)

- ・はい、分かりました。

なお、審議会等の会議の公開に関する事務取扱要綱第8条によりまして、公開した会議の資料及び発言者を明記した会議録につきましては、県政情報センターにおいて、3年間、県民の方々の閲覧に供することになっております。

それでは、さっそく「議事」に入りたいと思っております。「議事」の「イ 今後の審議計画に向けて」です。事務局から説明をお願いいたします。

(事務局；吉田社会教育支援班課長補佐)

・それでは、資料1を御覧ください。第4回の本日の会議は、これまでの審議内容を基にしながら、第34次宮城県社会教育委員の会議審議テーマ設定のための審議をいただくことが中心となります。次回以降は、各種調査の内容や実施結果のまとめ、さらにテーマに係る審議を広めていただき、意見書という形で取りまとめて提言をいただければと考えております。どうぞよろしくをお願いいたします。

以上でございます。

(澁谷議長)

・ただいま事務局から説明がございましたが、このことにつきまして質問あるいは御意見はございませんでしょうか。

ないようですので、事務局案のとおり審議を進めていきたいと思っております。

それでは、「ロ 審議テーマ設定に向けて」をこれから協議していきたいと思っております。「審議テーマについて押さえておきたいこと」、それから「これまでの審議内容について」は関連がございますので、事務局から一括して説明をお願いいたします。

(事務局；吉田社会教育支援班課長補佐)

- ・A3版の資料2を御覧いただきたいと思っております。

はじめに、「1 審議テーマ設定に向けて押さえておきたいこと」として、4点挙げさせ

ていただきました。

1点目、「現代的な課題から」ということで、集落ごとの人口減少、少子高齢化、子どもの貧困問題。自立した地域づくりが急務である。家庭の教育力低下が起因と考えられる様々な問題が激増している。学校は、いじめ、不登校、学力・体力の低下、生活習慣の乱れ等の対応に追われ、教師の多忙化に歯止めが掛からない。地域はかつて濃密な人間関係を背景にして「教育力」を有していたが、失われて久しい。地域全体で子どもを育む仕組みを新たに構築する必要がある。

2点目、「第2期宮城県教育振興基本計画（中間案）第4章施策の展開から」です。こちらは参考資料1として別に添えております。後ほど御覧ください。目標の1, 4, 5が社会教育に大きく関わってまいります。

<目標1>自他の命を大切に、高い志と思いやりの心を持つ、心身ともに健やかな人間を育む。<目標4>学校・家庭・地域の教育力の充実と連携・協働の強化を図り、社会全体で子どもを守り育てる環境をつくる。<目標5>生涯にわたり学び、互いに高め合い、充実した人生を送ることができる地域社会をつくる。

3点目は、「第9次宮城県生涯学習審議会答申『東日本大震災を乗り越えて』から」です。概要版を参考資料2としてお示ししております。

学びを核として人と人がつながり地域を支えるみやぎ。子どもと大人が学び合い、育ち合うみやぎ。震災の教訓を次世代に確実に引き継ぎ、活かすみやぎ。あらゆる人の学びを応援するみやぎ。

そして、4点目といたしまして、「第33次宮城県社会教育委員の会議意見書から」です。

子どもは地域の担い手であると認識する。子どもの地域活動への参加・参画を進める。世代を超えたかかわりを持つ。子どもの思いを伝える機会や場をつくる。ジュニア・リーダーとのつながりを大切にする。子どもと地域をつなぐ。

こういう提言をいただいたところでございます。

次は、「2 第1・2回会議で出された意見まとめ」についてです。1回目、2回目の会議で皆様から出していただいた御意見を、大きく5つに分類してみました。

「1 社会教育関係職員に関すること」として出された意見を大まかにまとめますと、職員の意識を高め、やりがいを感じさせる仕組みづくり。専門性や人間性を育てる研修の充実ということが言えると考えました。

「2 青年教育に関すること」としては、青年層の意識を地域活動参画に向かわせる体制の促進ということになると思います。

「3 子どもの体験活動の重要性」としましては、地域における子どもの体験活動の促進が将来の地域づくりを変えるとまとめました。

「4 社会教育を通じた地域づくりに対する大人の意識」としまして、大人の意識を地域づくりに向け、活動を推進することが人づくりにつながる。

「5 社会教育事業のあり方・連携のあり方」といたしまして、人と人のつながりを広げ、

深める事業と多様な連携の推進というようにまとめさせていただきました。

このようにまとめる基礎となったのが、資料3「第1回、第2回会議における意見の集約」ですので、後ほど御覧ください。

第2回会議では、「社会教育は、地域づくりをはじめとした地域課題の解決に対する根っこの部分になる非常に重要なものである」という認識を共有し、話し合いを行いました。ここでは、「人は出会うことで気付き、知らない人と出会い、知らない人と話ができ、何かの時に別のつながりが生まれる」のが社会教育であるという議長からの締め言葉がありました。また、「人が集まらないところに地域の活性化はない」ということは、共通理解できているものと捉えております。

地域における人づくりを社会教育的視点で考えたとき、社会教育施設、とりわけ公民館の人づくりの拠点として果たす役割は大きいものと考えます。公民館を核として地域をどう育てるかが重要になってくると考え、その公民館の現状が上から3つ目の表に挙げられています。

1つ、人員や予算の削減、施設の老朽化、事業への参加者の高齢化・固定化。2つ、社会教育主事の減少や派遣社会教育主事制度の廃止などにより、社会教育職員の専門性が希薄化している。3つ、社会教育施設の指定管理者制度の進展により、運営形態が多様化している。4つ、首長部局の事務移管への対応、新たな役割や機能が課されてきていることなどの現状が見られます。

各教育事務所圏域の実態について聴き取り調査を行い、一覧表にまとめたものを参考資料3として用意しましたので、こちらも後ほど御覧ください。

第3回の会議では、2回目までの会議で人づくりが大切だということに意見がまとまり、その拠点となる公民館の実態をはじめとした社会教育の現状についての研修を、教育事務所や市・町に派遣されている社会教育主事を招聘して行いました。それぞれの話を視点1「人と人とのつながりについて」、視点2「人材育成について」、視点3は連携や協働はどうなっているのかを踏まえて話をしてもらいました。最後の話し合いは短い時間でしたが、皆様からたくさん御意見をいただきましたので下の表に記載しております。いくつか紹介させていただきます。

まず、視点1の「人と人とのつながりについて」ですが、教育事務所の社会教育主事からは「住民参加の地域づくりや、地域に密着した行事を主体的に運営しているところもあるが、地域学習課題に目を向けて住民を巻き込むような取組を行っているところはまだ少ない」、派遣社会教育主事からは「活動の幅を広げるためには、ボランティア確保が必要となってくる。いろいろな人材の人間関係をうまく調整しながら人数を増やしていくことが必要である」、委員の皆様からは「若者の心をつなぐ事業展開が求められる。公民館をアウェイと捉えている若者がいる」というお話をいただきました。

視点2「人材育成について」ということでは○の2つ目、「事業内容が高齢者に偏ったプログラムになっている面があり、若い世代への働き掛けや、若い世代の公民館活動への参加

ということほとんど見られない」、派遣社会教育主事からは○の1つ目、「派遣がいなくなった時に、これまで推進してきたことをいかに引き継いでいくかが重要である。引き継ぎを実効的なものにすべきである」、委員の皆様からの意見といたしまして○の1つ目、「高齢者が有している人と人がつながることに関するノウハウを次の世代に引き継いでいくことが必要である」というお話をいただきました。

視点1, 視点2を合わせて、「現在地域づくりの担い手としている人材は、これまで社会教育の推進において育てられてきた。社会教育が衰退すると、地域の担い手がやがていなくなる。今こそ、本来の社会教育を見直さなければならない」「派遣社会教育主事が、3年間掛けてそれぞれの市町の生涯学習の土台を作ってきた。各市町でどう壁や屋根を上げていくか、発展を期待したい」という御意見も出されております。

視点3の「連携や協働について」ということで、教育事務所の○の3つ目です。「持続可能な連携を進めるためには、学校の内と外に窓口となる人材の位置付けが欠かせない」、派遣社会教育主事からは○の3つ目、「地域のニーズをつかみながら、新規講座の開拓を行ったり、事業内容を検討したりしている。人材の確保や協力体制の整備など解決しなければならないこともある」、委員からは「地域住民の立場としては、学校や地域の子どもと関わりたいと思う人がいることを感じている」というお話をいただいております。

前回は皆様の御意見を頂戴する時間があまり取れませんでした。そこで、皆様に感想やさらに聞きたいことがないかを投げかけたところ、杉山委員、星委員、佐々木淳吾委員の3名から感想や質問をいただきました。それで再度、社会教育事務所、社会教育主事や派遣社会教育主事に伺い、いただいた回答が資料4となりますので、後ほど御覧ください。

本日のテーマ設定に向けて、事務局としましては下の枠にある「ひとづくりに視点を置いて、今後社会教育がどうあるべきか」ということがポイントと考えております。御審議よろしくお願いたします。

以上でございます。

(澁谷議長)

・ありがとうございました。これまでの話し合い、あるいは話題提供であったことを、大変しっかりとワンペーパーにまとめていただきました。本当にありがとうございました。

ただいま事務局のほうから、これまでの経過のまとめについて説明いただきましたが、何か質問あるいは御意見等はございませんでしょうか。よろしいですか。

それでは、ここから「審議テーマの設定」になります。今回は90分あるのでしょうか。これまではなかなか時間が取れなかったところですが、今回は事務局の御配慮で十分に時間を取っていただけるということで、感謝申し上げたいと思います。

ただいまの資料を基に、皆様でこれから審議テーマについて話し合い、ある程度方向付けができればと考えております。皆様のほうから審議テーマに結び付くようなキーワードあるいはセンテンス等をたくさん出していただければと思います。

誰か第一声を下ろしていただければ……。このまとめていただいたものについての思いなどでも結構だと思います。

(佐々木とし子委員)

・テーマに近いかわからないんですが……。

今、私のところ、白石では、県民大学の講座の一環として、地域の人たちと何かをすることになり、人づくりをしよう。そのために何をするか、みんなで集まって話し合いが始まり、やってみたら仕掛けるということがすごく大事でした。その仕掛けに乗った人たちは、今まで「こんなこと何？」みたいなことを言っていた人たち。その人たちがどんどんその気になっていって、いろんなところでの活動になり、ついこの間の最終日はたくさんの方が集まったんです。

「やりたい！」とか「面白い！」という気持ちになることで、地域づくりに乗ってくる。地域の人と一緒に親子も入ってくる。親子と一緒に地域の人も参加しながら、一つの目標に向かっていった。そのことがまた次の喜びとなり、活動につながっていくと思う。

ここにもあったように、それをするための拠点となる公民館のあり方というのもすごく大事。それから、地域の人たちのやる気を起こす何かを仕掛けるというのもすごく大事。そのことによって人がつくられ、子どもたちも参画していく方向に行くのではないのかと思うと、これが一つのテーマになると思っております。漠然としていますが、そう感じました。

(澁谷議長)

・人づくりという一つのキーワード、もう一つはやる気の出るようなプログラム。実際に参加する方々が、親子とかの世代を超えるということ。それから、公民館というキーワードが出てきたと思います。よろしいですか。

(佐々木とし子委員)

・はい。

(澁谷議長)

・そのほか、どうぞ自由に。

(坂口委員)

・私も今の意見に賛成ですけれども、人づくりとなると、どの辺をターゲットにした人づくりになるのかというのがポイントだと思うんです。10次くらいからのテーマを見ると、人づくりということに関してあるにはありますが、それは子どもたちを育てるとか、青年を育成するとか。そんなことに行っているんです。私は人をつくる人の人づくり、そういう人材を育成していくことにテーマを持っていったらどうなのかという気がします。

ここにいろいろなキーワードが出ています。つながりであったり、公民館もあります。ただ、公民館は場所としての捉え方で構わないと思うんです。例えば、出会いを通じた人財育成みたいな感じ。高齢者、いわゆる先輩方とこれから人を育てようとしている人たちを公民館で引き合わせ、出会わせて、次に向かう人を育てていく。人材の「材」を財産の「財」にするというのが最近のはやりです。そういう「人財育成」というのもありかなという気はしています。

公民館を中心に据えて「公民館で何かをしましょう」というと、成果は見えやすいかもしれない。おそらく、「あれをやった」「これをやった」という成果は出てきますが、それは実際の成果なのかという気もします。ずっと前から言われているように、社会教育というのは時間の掛かることですから、そういう意味では形のあまり見えてこないもの。そこは割り切って、公民館は場所として提供してもらおう。そこを拠点にして、人が出会える場をつくっていったらいいかなものかなと思いました。

(澁谷議長)

・はい、ありがとうございます。

人財育成ということです。「材」を「財」という捉え方にしても面白いということなどのお話が出ました。

あとは、異世代との出会い。

もう一つ、公民館。これからたくさん議論が出てくるかもしれませんが、これまでも社会教育施設の中核を成すのが公民館だという議論はだいぶ成されてきました。人材育成を考えたときに、公民館にその任のすべてを期待するのは大変難しいのではないかというようなお考えが出てきたように思います。

今、坂口委員さんから出たことに関連するので、少しお話し申し上げたいと思います。

実はきのう、大崎市の審議会を傍聴する機会がありました。その中で、ある議員さんがこういう質問をされていたんです。「地域の人材育成をいったいこれからどうするんだ」と。そういう地域の人材育成に関する質問が出て、誰が答えるのかと思っていたら、残念ながら教育委員会ではなく、首長部局の地域づくり担当の方が答弁していました。答弁の中身は、「地域づくりの枠の中で」と。「地域づくり活動資金で、ある地域はリーダー育成講座を開催している」というお話が出ました。

その質問をされた方は結構年配の方なので、イメージしているのは一昔前の青年の船とか青年の翼。「そういう事業があったろう」と。「そういうので、われわれ世代はリーダー育成をされてきた。いまはそういうのが何もないので、もう一回、市独自でやる必要はないのか」と再質問されました。結局、教育委員会部局は答えられるものがなかった。現実ですね。それで、首長部局の担当の方が経済部でやっている海外研修のお話を出されて、一応、終えたんです。

地域の人材育成というテーマを問われたときに改めて思ったのは、さっき坂口委員さん

がおっしゃったように、公民館あるいは社会教育の領域での地域の人材育成というものに実際的に関わり合い、寄与でき、中心になっているのは、大変残念ながら一般的には教育委員会部局ではない。そこが主役ではない。そういう認識になってしまっている。少し複雑な思いをしながら家に戻り、この会で何かの折にお話しして、委員の皆様方からさまざまなお考えをお伺いできればと思っていたところに、ちょうどいま坂口委員さんから人材育成というものについてお話が出たので、触れさせていただきました。

大きなキーワードとして、地域づくりとか人づくり、人材育成というのが常に話題になっていました。現実、そのようなことがあったということで私の感想的なものも含めてお話しした次第でございます。

その辺りにつきましても、何かお話……。齊藤委員さん、お願いいたします。

(齊藤委員)

・今、坂口委員さんと澁谷議長さんがおっしゃった点です。私自身、ずっと教育畑とは関係のないところで生きてきたのでそういう印象もあるんですけども……。

刺激的な言い方になってしまうかもしれないんですけども、社会教育施設、公民館が人づくりの拠点と書いてありますが、果たして拠点たり得ているのかどうなのかということをおもうんです。震災があつたりすると、とりわけいろんな団体が発生してきます。長く続く団体も、短い期間だけの団体もあるわけですが、地域づくり・人づくりに関連することをこの震災被災地というフィールドで行うわけです。そうすると、公民館というのはある種ワームゼムというか、いろいろとやっている団体の中の一つという位置付けなのかもしれない。

そのいろんな団体がいろんなことをやっているという状況が、果たして地域の中で整理されているのだろうか。つまり、見取り図、「この団体はこういうことをしている」「あの団体はああいうことをしている」という、その整理ができていないのかもしれないと思うんです。震災直後あるいは1年後くらいのときだと、そういう整理というのは成されていたかもしれませんが、時間経過とともにだいぶ変わってきます。そういう見取り図、その地域でどういう団体がどういう活動をしているのかという整理みたいなことを、公民館がやっているといいのかなということをおもったりもします。

少し刺激的なことを言ってしまったかもしれませんが、その点は御容赦ください。

(澁谷議長)

・どうぞ、佐々木委員さん。

(佐々木とし子委員)

・大崎のほうの水面下での人材づくりの話です。大崎、古川の社会教育、家庭教育として、これから人材を育成する、来年度には新チームをつくったりするという計画を飲み会の中で進めている。来年度の初めには実行していこうという話をしているわけです。実際にい

まいろんなことを調べているし、それは来年度成立することになっています。

そういう水面下でいろいろやっているところを、どう取り上げて、持ち上げて、実現させられるか。行政とか地域の人とかが協働するということに、どうやってもっていったらいいか。それがきっと次の段階なんだろうと思って、私は飲み会に参加しながら聞いていたんです。

それから、拠点は公民館でなくてもいいという話です。どこかのまちづくりです。「うちの町には子どもが何人もいない。住民も20人くらいしかいない。どうしたらいいか」と、毎日、おじさんたちが田んぼや畑に集まって話し合い、「こういうのしたらいいんじゃないか」「ああいうのしたらいいんじゃないか」と。そういうところから始まって、ものすごい成果を上げた。都会から子どもが来るという素晴らしい仕組みが出来上がっていった。そういう人たちの補助金とかも入って、立派な施設もできた。今度はそこで話し合いを持ちながら、どんどんまちづくりが進んでいるという話も聞いたことがあるんです。

だから、最初のスタートは公民館でなくても、おらほの畑でも田んぼでもいいわけです。でも、現実的にどこで集まるといったときに、どこにでもあるのは地域にある公民館。一番集まりやすい。田舎に行けば行くほど、集まる場所がなかなかない。仙台だったら市民センターになるのですが、地域にはいろんな場所があるけど、「さあ、集まろう」「場所を借りたい」というときに、借りられるのはやっぱり公民館。そう思うと拠点の一つ、大きなものになると思います。

(澁谷議長)

・公民館がだめだとかいうのではなくて、公民館は公民館の機能として働いている。現在も大事な働きを持っているのだという認識は、私も含めて皆さん変わらないと思います。

そういった状況の中で、公民館に力を付けていってもらって、もっともっと活動してもらいたいという一つの柱と、地域づくりがテーマになったときに、公民館がすべてを担うことは大変だという気持ちもあります。

公民館の地域づくりの機能はこの方向で考えたい。もう一つは、首長部局で取り組んでいるもの。互いに共有し合う。ただ、教育委員会部局、生涯学習担当のほうは、首長部局でやっている人づくりについて、「積極的にそれに関わって一緒にやりましょう」という風潮はあまりないような気がします。

ずっとこれまで、地域づくりとか人づくりということをみんな話題にしてきましたが、ふと思ったのは、首長部局あるいは民間でやっているものについても、一緒にアプローチしていくことはできないかと。地域づくりができればいいのであって、どこの手柄とか、どこかの担当というものではない。大きな流れの中で物を考えていったほうがいいと。本当は議長がこんなにしゃべってはだめなんですけど、広げた形で提言をまとめていければ、いまの時代に合った、今求めているものが少し見えてくるのかもしれないと思ったりしたものですから、話をさせていただきました。

星山先生, どうぞ。お願いいたします。

(星山委員)

・今, 澁谷議長さんがおっしゃったことは, すごくよく分かるんです。というのは, 宮城県だけではなく, 全国的な傾向として, これまで社会教育あるいは生涯学習が人づくりをやってきた。それがどんどん首長部局に移っている。自治体によっては, 生涯学習課が教育委員会の中から首長部局に移ったと。教育委員会は学校教育だけやっていたらいいみたいな傾向がはっきり出てきているわけです。私が仙台市にいたときにはずいぶん抵抗したんですが, 結局, 仙台市も押し切られてしまった。市民センターが補助執行という形で区役所のほうに移ってしまって, 区役所の職員が入ってくる形になっている。

そのことと今回のこととを重ねて考えたときに, 事務局がすごくうまくまとめてくれました。資料2の2の中の, 『社会教育は, 地域づくりをはじめとした地域課題の解決に対する根っこの部分を担う非常に重要なものである』, という認識の共有」と。これができていないんですね。これが壊されていると言ったらいいかもしれないです。ここから社会教育ないしは生涯学習が発火すると私は思っています。この部分が壊されて, いても簡単に教育委員会から首長部局のほうに担当が移っている。社会教育あるいは生涯学習に関わる職員は, このことの意義・重要性を認識するところからじゃないと, 発火しないのではないかな。そのことを伝えていくことがすごく大事なのだということが, いまの皆様の御意見の中に出ているのではないかなという気がしたんです。それをどういうふうにテーマとして設定していくかということ。それがわれわれの課題なのではないかなというふうに, 私は考えております。

具体的には, 公民館というのは単に場所に過ぎないので, 公民館でなくてもいいわけです。先ほど佐々木さんがおっしゃっていた, 田んぼのあぜでもいい。そういうのはたくさんあるわけです。住民だけで集まってワイワイやっていく中から, 学習が広がりを持ち, そこにあとから町が支援していく。そういう例はたくさんあると思うんです。社会教育職員だけではないと思うんですけれども, 職員の人たちの共通認識, ここに掲げたようなことをどうしたら広めていけるか, あるいは定着させていけるか。職員も自信を持って, 「だからこれをやるんだ」と言えるようにする。教育委員会は単に人を育てるだけ, 活躍するときは首長部局の担当になってしまうと, そのつながりがうまくできなくなってしまう。そういう課題も具体的に出てくると思う。そこを解決する意味でも, 今, 皆さんから出されたことはすごく大事です。それをどういうふうにテーマ化していくかということを考えていたら, 上手にまとまっていくのではないかなという気がして聞いておりました。

(澁谷議長)

・ありがとうございます。社会教育というものについて, 地域づくり課題の根っこの一番大事なものであると。そういうことを認識した上でというふうなお話がありました。

どうぞ, 相澤委員さん, お願いします。

(相澤委員)

・いつも分からないのが、「人づくり」はテーマに出ますが、どういう人をつくりたいのか、どういう人を理想としてみんなで育てていきたいと思いますか、というのか、いつも迷っています。

例えば公民館で言えば、公民館のすぐ近くに住んでいらっしゃる方ですが、長年、個人でお花を習っていて、2・3年前から「公民館の下駄箱の一面を貸して」と言っていて、ボランティアでお花を生けてくださっています。「公民館だよりで紹介したい」と言っても、「いいの、いいの」と遠慮する。また、「子どもの読み聞かせしたい」とか、こちらから手が足りないので、お手伝いをお願いすると快く引き受けてくださる方など、地域には、表には出ないそういう方々が結構いらっしゃるのではないのでしょうか。

リーダーシップをとって、いろんな人を集めて地域の問題を解決していく、そういうガンガン引っ張っていく人だけが人づくりの中のエリアに入るのではなくて、さり気なく、何気ないような人たちの力はものすごく大きい。県や市町村の社会教育、公民館事業、住民の取組を仕掛けている中で、そういう方々が意外と育っていらっしゃるのではないのでしょうか。

でも、それは年齢層が偏っている傾向があるかと。偏っている層だけではなくて、社会教育や地域、人づくりにまったく目を向けていない状況の人や、その中に入ってこられない人たちに対して、今後われわれはどういうふうにPRして、どういう切り口で仕掛けていけばいいのかといつも思っています。

委員さん方がお話しになったとおり、いろんなところでいろんな社会教育以外での仕掛けがいっぱいある。いろんなところで人づくりという花火がどんどん上がっていますが、点と点であってその点を線としてつなげるところがない。例えば、一人の人がそれぞれの会の委員なっていたりしても、その委員が持っているものは点であって線としての総合的な活用がされていない。とてももったいないと思っています。公民館だけでなくそういう部分も少し考えていけたら、もっともっと広がっていくのではないかと思います。

(澁谷議長)

・ありがとうございます。
どうぞ、佐々木委員さん。

(佐々木淳吾委員)

・いま相澤委員がお話ししたことです。

これまでの皆さんのお話を伺っていて私が漠然と思うのは、公民館をよりにぎやかな場所にすることが目的なのではなくて、あくまで手段の一つに過ぎないのだと。拠点、場所はどこでもいいのだと思いました。ただ、この前、登米の公民館大会に参加させていただいたときに、数は失念したんですが、日本最大のコンビニチェーンと同じくらいの数の公民館が全国にあると。やはりこれはできるだけ活用しなければもったいないと。自分は公民館を

離れたところから見ている人間なものですから、そのとき以来、そう思っているところです。

皆さんのお話を伺って「人材の育成」という言葉だけをとりえると、ハードルがすごく高い感じがしています。僕が提示したいキーワードは「人探し」。まずは「人見つけ」になると思います。相澤委員がおっしゃったような人、自分の趣味でとか、プロフェッショナルな方に教わっているとか、あるいは御自身がそれで生計を立てていてもいいですけど、今まで得た知識とか経験を披露したい、実際にしているけど、それが皆さんに知られていない、あるいは実際にしていなくて、どこかでそういったものを皆さんにお裾分けしたい、共有したいと思っている方はおそらく地域に大勢いると思うんです。

私どもの普段やっていること、放送というのは実はそこです。たとえば「この季節だから、こういうことについて知りたい」と。そうしたら、その道のプロフェッショナルな人、あるいは趣味で楽しんでいらっしゃるすごい人はいるかなと探す。どういうところにどんな人がいるというのを見つけてきてお話を聞くのが、われわれの仕事の大事な部分だと思っているんです。

個人情報保護の時代で、例えば数年前に伺った人の連絡先をずっと取っておくのが難しいであるとか、いろいろな問題があるとは思うんですけれども、埋もれている本当はすごい地域の人たちを見付ける。育てるのももちろん大事ですけど、まずはいまいらっしゃるすごい人たちを見付ける。そのことによって、「隣に住んでいる誰々さんがあれだけすごいことから、じゃあ、私も一緒に行って話を聞いてみようかな」というふうに、草の根で広がっていくものがあるというふうに、漠然とですが皆さんのお話を伺って感じております。

(澁谷議長)

・ありがとうございます。相澤委員さんと佐々木委員さんが触れられたことは、人。

事前に資料をいただいたら、「地域を支える人材育成」という言葉が出ていた。私も前はそんなに気にもしないで、「ああ、そうなんだな」というふうに思っていたんですが、改めて「地域を支える人材というのは、どんな人なんだろう」というふうに考えたときに、なかなか難しいんですよ。相澤委員さんからお話があったように、地区で何とか会の会長になっている人なのか、何とか育成会の会長さんなのか。地域を支えるにはそういう人ももちろん大事ですが、そういう人だけではないはずだと。そういう方々は本当に一生懸命に仕事をやってくださっているんですが、名刺をいただくと、往々にして表にも裏にも、役員の名前がいっぱい書いてある。そういう方々ももちろん地域を支える人材なんだろうけど、今お話しいただいたように、そういう会議に出て発言をすとかでなくても、何かのボランティア活動をされているとか、公民館にお花を飾ってくださるとか。あるいは、子どもたちに何か声を掛けてくださるとか。そういう人たちも含めて地域の人というものを考えなければならぬのだと感じていたときに、佐々木委員さんのほうから地域の人づくり、人材というのは確かに聞こえはいいが、ハードルが高いと。人探し、人見つけといったところから人材育成というものをとらえ直してみると、一つの切り口が見えてくるかなと、共感しながらお話を

伺っていたところでした。

どうぞ、田中委員さん。

(田中委員)

・人づくりという言葉聞いて私が発想したのは、まず地域の子どもを育てるということ。そういうことを考えます。何か行事をやるとしたら、行事を手伝ってくれる人とか講師の人たちが必要です。その人たちを増やしていくのも人づくりなのではないか、というふうに思います。例えば、子どもが参加する行事は、地域のお父さん、お母さん方に手伝ってもらい。みんなで行事に参加すると、地域が活性化します。そういう行事を長年続けていくと、小学生だった子どもが中学生になる。中学生になったら、何かの行事のときは小学生の面倒を見てあげる。そういう形でつながっていく。参加していた小学生が、お兄ちゃん、お姉ちゃんにいろいろなことを手伝ってもらいながら年代を重ねていく。そういう行事を組み立てていく。地域にそういうものがあればいいのかなというふうに思いました。

幼稚園なんかですと、役員のお父さん、お母さんがみんな手伝ってくれる。そういうのが地域にあれば、保護者も一緒にやる。それで顔見知りになって、子どもに何かがあったときには地域で子どもたちのことを注意深く見たり、育てたりということにもつながってくる。子どもを育てるというのには、手伝ってくれる人たち、講師の人たちを発見するのも含まれてくるかと思えます。

先ほど齊藤先生がおっしゃっていたように、いろんな団体が来て、行事を1個ずつしていく。小学校の行事、幼稚園の行事、地区の行事、それをどういうふうにとまとめていくのか、そこをどうするかということを考えていくこともあると思っています。私の住んでいるところは、地区の会長さんが総会で集めたりする。その下に広報などをいろいろ配る人たちがいます。輪番でやるので私もなっていたことがあります。20軒くらいを1チームにして担当しています。いろいろ配るとか、集金とか。地区のふれあいスポーツ大会とか、ふれあいカラオケ大会とか、ふれあい盆踊り大会とか、地区の文化祭とかをやるときに、隣近所の担当の人に「出てー！」とか、「何か出品して！」とかいろいろ言われると、「何とか時間が取れそうだから出るか」と言いながら行事とかに参加したりする。今まで顔を合わせなかった人たちとか、子どもたちとか、いろんな人たちに会って、「あれ手伝って」「これ手伝って」と言われて手伝ったりもします。

そういう全体をまとめるにはどうしたらいいのかということを見ると、地区での顔見知りがだんだん増える。子どもたちも育て、何年かすれば、中学生が小学生の面倒を見てまとまりが出てくる。高校辺りでそういう地区の行事の参加もしなくなるけど、定年になって退職して、おじいちゃん、おばあちゃんになってもまだ住んでいれば、もう一回地区の小さい子どもたちのためにいろいろ手伝う。そういう循環をつくるような形が、地区全体を活性化していく。その仕組みをどうしたらいいかということも、一つあるのかなというふうに思いました。

(澁谷議長)

・佐々木委員,お願いします。

(佐々木淳吾委員)

さっきの僕が発言したことに続くかもしれないですけど……。

先ほど星山先生が,資料2の『社会教育は,地域づくりをはじめとした地域課題の解決に対する根っこの部分になる非常に重要なものである』という認識の共有」というところを御指摘されたと思うんです。「私はアウトサイダーなんだ」と思ったのは,僕はここの認識ができていないからだと思うんです。それはどういうことなんだろうと考えてみました。

下の「ひとづくり」の表のところに「社会教育の職員の専門性の希薄化」ということが書かれていると思うんですが,内部的に言うと,たとえば指定管理であったり,制度が改廃されたりすることによって専門性というものが希薄化していつている部分があると。公民館という視点を離れて外部的に言うと,別の専門性が流入してきているのではないかとと思うんです。例えば災害復興ももちろんそうですし,地方創生ということも言われています。復興支援員であったり,地域おこし協力隊であったりがダイレクトに,社会教育というフィルターを通らずに,民間あるいは地域の中に入ってきている。この彼らの存在は,教育部局というよりまさに首長部局に関わってくる問題,テーマです。そことのつながりで入ってきていると思うんです。

彼らは「よそ者,若者,ばか者」と言われたり,UあるいはJターンで首都圏から帰ってきたりする。そうすると,地域づくりというときに,ある種,即効性があるようなことをさまざま外から仕掛けられていつている現状がある。彼らは自分たちの輪の中だけで活動しているのではなくて,時に地域のローカルな人たち,あるいは草の根の知識を持っている人たちともつながっていつている部分があるのではないかとと思うんです。結び付いてしまっていると。イベントだけを手掛けるのではなくて,生業的な農業であったり,漁業であったり,そういうところにも入り込んでいる現状があるのではないかとと思うんです。

ただし,問題となるのは,こういった政策というのは比較的,時限的。何かというと,3年なら3年という形で予算措置が執られている。その後どうするんだという弱さを持っている。こういう状況の中で,もう一回,この認識ということを考えていかなければいけないのではないかと。つまり,非常に重要なものであるというは確か。なるほどそうだなと思う部分は僕もあるんです。でも,現状からすると,専門性というものが内部的にも崩壊しているし,外からさまざま入り込むような環境づくりがされてしまっている。その中でこの認識ということをごどのように考えていったらいいのだろうかというところに,もう一回立ち返らなければいけないのではないかなんていうことを,さまざまな委員の方の意見を伺いながら思ったところですので,しゃべらせていただきました。

(澁谷議長)

・ありがとうございます。

はい、どうぞ。

(佐々木とし子委員)

・先ほど相澤委員さんが言った点を線につなぐとか、人探し、人見つけというキーワードで思った話です。

町を花いっぱいにしてしようという話になって、みんなで集まり、町のシンボルのところにサクラを植えようということになったんです。地域には本当にそれぞれの能力を持った人がいっぱいいるのだなと思ったのは、「サクラはいつごろ植樹したほうがいい」とか、「穴はどのようなふうに」「肥料はどうだ」と、1つのものはパーフェクトではないけど、それぞれが専門を持っているんです。

それから、スイセンを植える。「スイセンの球根はどのようなふうにして、いつごろ植える」とか、「それを植えるにはこうやって、ああやる」とか、また別な人が専門的に言うわけです。それをトータルするとものすごいものになる。そして、「うちには穴掘り専門のこういうのがある。ああいうのもある」と、今度はそういう機械を持っている人が名乗り出る。

たとえばPTAでも何でも、行事をして地域の人が集まったときに、実はそれぞれが一つ一つの専門を持った人たち、能力とか、知識とか、経験とかを持った人たちがいる。だけども全部を持ち合わせているわけではないから引いているけど、話が出てきたときに、「その部分なら私ができます」「その部分なら私が得意です」という人たちが名乗り出て、1つのものができる。これが社会教育なんだろうというふうに、それぞれの話を聞きながら思いました。思っただけの話なんです、すみません。

(坂口委員)

・今の賛成です。どういう人材が必要だとかいうのは、全員必要なんですよ。いろんなものが必要なんです。よそから専門性を持って来る人たち、ある目標を持って短期間入ってくる人たちもいっぱいいます。昔からいろんなことをやっている人もいます。

大切なのは、その多様性を地域ぐるみで容認すること、皆さんが認め合うことなんですよ。なぜそういうことができないかというのは、あまりにも知らなさすぎるから。お互いが知らないことから始まっているので、先に進まない。言葉では人材育成となってしまいますけど、大切なのは人と人が会うこと。いまいろんな活動をされている方、点、点、点でやっている人たちが集まる場所をつくることだと思うんです。ひざを突き合わせて、お互いが「こんなことやってるんだよ」と言う場をつくる。話し合わせるだけです。何かしようではないです。そこで一つにまとめて何かをしようというのではなくて、みんながやっていることを認め合う。緩いまとまりをつくる。塊にしてしまう。塊になったら、線で少しずつつながって、動けるようになっていくのではないかと思うんです。

私は上杉ですけれども、上杉では実際にそういう組織をつくってやっています。時間は掛かります。お金はまったく掛かりません。時間は掛かりますけれども、そういうことで人材育成というのは育成されている。地域がまとまっていくのではないかと考えています。だから、人材育成ってあまり難しいことではないと私は考えています。時間を掛ければ必ずとついてくるのではないかという気はしていました。

(澁谷議長)

・はい、どうぞ。

(星山委員)

・先ほど齊藤委員さんがおっしゃったのは、すごくよくわかる。

話の中に、専門性というのが2種類出てきていると思うんです。地域課題や何々に取り組みときに求められる専門性から言ったら、もともと社会教育はそんなものは持っていない。持っていないと言ったら言いすぎですけども、環境問題が出てきたり、さまざま子育ての問題が出てきたり、その他いろんな問題が出てくるわけで、それはそれぞれの役所に専門の人もいるし、地域の中にもいるわけです。ですから、地域づくりの中で求められる専門性という言い方をしたら、当然、社会教育の枠は超えていると思います。そのことを認識する、確認するところから出発しないとだめなんだということがあると思います。

そういう中で、社会教育の職員に求められる専門性って何なんだろうというと、さっき佐々木淳吾さんがおっしゃった人探しとか人見つけ。私はこれはすごく大事だと思います。地域の中にはいろんな人材がいる。だけど、見えないのが現代社会。どこにどういう人がいるのか。いるけれども、お互いに見えていない。そういう意味で見つけ出す。見つけ出しただけではなかなか動けないので、うまくつなげいく。坂口さんは出会うと言った。表現はいろいろあると思うんですけども、地域にいるいろいろな人材を見つけて出して、その人たちの力が発揮できるようにつなげていく。そういう場をつくっていくことが社会教育職員に求められる専門性なんだろうというふうに私はずっと思ってきました。

でも、それは大事だということにこだわっている社会教育職員が減ってきている。それが現状なんだろうと思います。自分の手に負えないところは、同じ役所の中のほかのところから応援をもらったりすることだってできる。連携とかつながり。まさにブツブツに切れてしまっているところを、うまくつないでいける力量を持った人を育てるということなのではないか。だから、皆さんがおっしゃっていること全部、道筋は出てきているような気がして聞いていました。

(澁谷議長)

・はい、どうぞ。鈴木委員さん。

(鈴木孝三委員)

・ A 3 版の御説明をいただいた資料を見えています。例えば、「現代的な課題から」のところ
で言うと、一番最後の「地域全体で子どもを育む仕組み」づくりというのがあります。そう
いった視点から見ると、隣の「第 2 期宮城県教育振興基本計画（中間案）から」に記載さ
れている、目標 4 の「学校・家庭・地域の教育力の充実と連携・協働」も同じような意味で
すし、その隣の「第 9 次宮城県生涯学習審議会答申から」の中では、2 つ目の○、「子ども
と大人が学び合い、育ち合うみやぎ」というものと同じ。そしてまた、「第 3 3 次宮城県社会
教育委員の会議」のところと言えば、3 つ目の「世代を超えたかかわりをもつ」と。これら
が同じような視点からの課題となっています。それだけ地域のみinnで力を合わせて子
どもたちを育てていくことの必要性が認識されているのだということだと思います。

その点から言えば、いま委員さん方がお話ししたことは、地域において参加・参画、あるい
は協働してくれる人を探して、それらの人たちの交流を通じた人材育成が必要であるとい
うことに結び付くのではないかと、そのように思います。

そこで、私が今思い出していたことは、第 3 1 次の社会教育委員の会議の答申です。その
中で、公民館あるいは社会教育施設のプラットフォーム的な運営といったようなことが、当
時の委員さんから提言されたと思います。今はいろんな学習スタイルがあるし、いろんな学
習課題がある。いろんなニーズを持って、いろんな学習活動をみんなそれぞれやっている。
その人たちがやっていることを公民館において共有したり、一つの事業として体系化した
りするというのはほとんど不可能だろうと。それよりは、駅のプラットフォームのようにな
ると。いろんな人たちが目指す目的地は違うけれども、必ずそこを通る。そこに集まってか
ら、自分たちそれぞれの目的の場所に行く。だから、「社会教育施設がプラットフォームに
なって、いろんな学びをしに行く人たちそれぞれの接点を見付けて、『うちではこういうこ
とをやっているんだ』『あっちの人たちはこういうことをやっている。面白そうだぞ』とい
う形で結び付くような支援をしていけば、それがやがて地域を支えたり動かしたりする力
になっていくのではないか」というような提言をしたんです。それを提言したあとすぐに
震災がやってきて、社会教育の在り方もまた別の角度から考えなければいけないような状
況になったように記憶しています。

震災のとき、中高生たちがすごく頑張った。子どもたちのそういった頑張りを、震災が終
わってからの地域活動に結び付けられないかということで、第 3 2 次は子どもを地域と関
わりを持たせようというのを提唱した。第 3 3 次はそれを仕組みづくりの中からさらに検
討したという流れになっていると記憶しています。

いずれにせよ、3 1 次をさらに発展させた形が、今われわれが話し合っていることにつな
がっているのではないかという気がしました。

そして、もう一つ言えば、参考資料 2 の 3 ページ「今後の宮城県の生涯学習推進について」
という答申の概要のⅢです。「これからの生涯学習推進について重点的に取り組むべき施策
の方向性」の中の 1 に、「学びを核として人と人がつながり地域を支えるみやぎ」というの

があります。まさに今お話ししたような視点で考えていくと、学びを核としてつながるような仕組みをつくっていく、あるいはそういったことを支援できれば、自ずと学習者の交流とか世代間の交流といったようなことが生まれて、それがとりもなおさず人材育成につながっていくのではないかなと。そういう気がして、委員さんの意見を聞いていました。

以上です。

(澁谷議長)

・ありがとうございました。

さまざまな視点から、人づくりをキーワードにしてたくさんお話をいただいたところでもございました。

どうぞ、相澤委員さん。

(相澤委員)

・私が社会教育主事講習を受けさせていただいたときの先生に、「生涯学習はいくつになっても生きる力、人間力を高められる教育なんだよ」と、「心づくりを基本としている。それが社会教育とか生涯学習の根底に流れているよ」ということを教わったような気がしています。その話はすごく印象が強かったです。

すべての事業とか学校教育、教育現場もちろんですが、公民館などで事業をいろいろ展開していると、根本的な目的、根本的な生きる力、人間力を構築する、心づくりを構築していくような仕掛けとか事業は意外とない。華々しいものはいっぱいあるんですけど、そういったものはどんどん少なくなっているのではないかという気がするんです。

なので、テーマではないんですが、今後の社会教育はどうあるべきかをイメージするパターン、そういった部分をきちんと構築できるようなもの、そしてきちんと人づくりできるようなもの、社会教育はどうあるべきかということを探れるような例があったりするのかなと、ふと思いました。

(澁谷議長)

・はい、ありがとうございました。

確かに華々しい事業は目立つし、何とかかんとかシンポジウムというのはよくあるんですが、だいたいそれっきり。次には結び付かないというパターンが多く目に付くので、もっと根っここの部分に視点を当てたテーマを考えてみてはというふうなお話でもございました。

はい、どうぞ。鈴木さん。

(鈴木正博委員)

・最初の会議で御紹介したと思うんですが、大河原に慈愛表彰委員会というのがあります。これも社会教育の一つの形態だと思います。校長先生を退職した方が、大河原の金ヶ瀬小中

の学区を対象に、地域の小学校・中学校の中で卓越した人を推薦してもらって表彰するという運動が、ここ20年くらい続いていると思います。20何年か前に地域づくり大賞ということで表彰を受けて、慈愛表彰委員会が継続して、毎年、推薦を受けた人を表彰しています。何年か前に20周年の記念誌を拝見したところ、当時、小中学生の方々が社会人として成長していて、その記念誌に文章を載せていました。その文章を読む限り、その表彰が励みになりいまに来ていると記載されています。

さっき即効性という話がありましたけれども、社会教育そのものについては即効性を求めるのではなく、継続は力なり、地域に根ざした運動の一つの事例として改めて紹介させていただきました。

さっき話題になった方は、学校長という夢があつてそういう運動に携わった。今までの皆さんの話と重複するんですけど、地域には何かしたいという方がかなりいらっしゃいます。教育委員会が主体であればネットワークづくり、接点、結び付くような仕組みづくりが必要ではないかというふうに思います。

あと、最初の会議でお話ししたんですが、私自身も社会教育委員に携わった関係で何かしらやりたいと。今考えているのは、大河原の地域創生。前にもお話ししましたし、先ほども地域創生の話が出ましたけれども、地域創生に関わりたいと。大河原に佐藤佐太郎という歌人がいるんです。その歌人に関しての講演会を持ちたいということで、個人的に勉強しながら、大河原の教育委員会にそういったものを提起したらいいのか、あるいは民間ベースで短歌の会なり、文化財保護審議会に紹介しながらやっていくのがいいのか、悩みながら仕組みづくりをやっています。有言実行ではないのですが、最初の会議の中で提言したので、そういった私自身の思いもあつて述べさせていただきました。

もう一点だけ。最初のいじめ・不登校との関わりです。私自身、社会教育という認識が十分でないので混乱しているのですが、不登校・いじめという標題がありながら青年教育と。私自身が認識不足でうまく結び付かないのですが……。

先ほど議長さんから審議会を傍聴したというお話がありました。私は機会があつて議員の議会報告会に参加したのですが、そのときに不登校対策について質問しました。たぶん垂直方式だと思うのですが、大河原ではケアハウスと呼称しているところがあつて、県の方針でそこで不登校対策をしているということです。具体的に議員とお話ししたら、率直に言ってあまりうまく機能していないようなニュアンスだったんですけど、夏休みはその場を開放して学習するというので、何人か来ていたというお話を伺いました。

前もちょっとお話ししたんですが、そのとき私が不登校対策としてお話ししたのは、フリースクールという立場を義務教育化するという案が廃止されて、地域支援教室というレベルでやるということ。新聞紙上での知識しかないのですが、教育委員会等の支援その他の参加が2017年度になると。教育委員会と議員合同でフリースクール等の企画をして、具体的に文科省からの答申が2017年度以降になった時点で民間なりNPOなりで企画したらいいのかと。個人的な意見として、議員さんに提起しました。これはあくまでも

個人的提起です。不登校対策という形であれば、議員と教育委員会の立場で何かしら仕組みがないかということで提起しました。いまのテーマとは少し乖離するんですけども、そういったことがあるということでこの場で披露させていただいたと。

以上です。

(澁谷議長)

・ありがとうございました。

仕組みづくりというキーワードが一つ出てまいりました。

千葉委員さん、何かございますか。どうぞ。

(千葉委員)

・皆さん、すごく難しいお話をされているので、ついていくので一生懸命でした。

青年団活動、私たちの活動は、従来、人づくり、地域づくり、仲間づくりと言われています。10年前なんて、何が人づくりになるのか、何が仲間づくりになるのか、何が地域づくりになるのかわからない。そういうところでずっとやってきて、改めてい思えば、これが人づくりになったんだなど。そのころわからないものが、結局、そうなっていると。だから、パッと見た目だけでそれが伝わりやすいようなテーマだったら、今の若い人たちも私たちと一緒に社会教育に関わりやすくなるかなと、皆さんのお話を聞いていて思いました。

(澁谷議長)

・ありがとうございました。

いま、非常に大切だと思いながらお話を聞いていました。人材育成というと、「施策として何をやればいい」とか、「人材育成何とかセミナーをやしましょう」とか、「何とか講習会をやしましょう」という発想になりがちです。それはそれとして大事なことでしょうけれども、いま千葉委員さんがお話しされたような、団活動とか会の活動、サークルの活動といったようなものを通して自然と学び、結果的に人材が育まれていったということ、これも育成という観点からして非常に大事な視点の一つかなと思いついて伺っていました。

冒頭の話に戻るんですが、議会の傍聴のとき、その方はかつて青年活動をやられていた方で、「自分たちはそういう場があったので何とかここまで来た」と。「自分たちは年だからもういいんだ。いまの若い人たちにはそういう場が一つもないじゃないか」というふうなお話だったです。そういったところを行政として何か考えてほしいという思いで発言されていたんですが、残念なことにその答え、すぐにどうするということは見つけることができなかつた。私はもちろん外野席で聞いていましたが、そういうことも含めてお話を伺ったところでございます。

はい、どうぞ。

(事務局；鹿野田副参事兼課長補佐)

- ・皆さんのお話を聞いての、感想めいたことになるかもしれません。

人づくりというキーワードを出させていただいているんですが、お話を伺っているとどうもやるべきは「人づくり」ではなくて、佐々木委員がおっしゃった「人見付け」だし、「人つなぎ」のほうではないかと。そう思って聞いていました。人づくりというと、上から目線になってしまう。地域でいろいろな活動をしていらっしゃる方が実際にいらっしゃって、これまでの人生経験だったり、職業経験だったりがある。子どもであってもいろいろな学びがあります。いろいろなものを持っている。時間のある方もいるし、お金のある方もいるし。スキルを持っている方もいる。それをどうやって見付けて、どうやってつないでいくか。つながっていろいろやることで、皆さんが一段階育っていく。それが地域の底上げにもなるのだらうと。そういうことなのかなと思って、いま聞いていました。

(澁谷議長)

- ・ありがとうございます。まさしくそれが社会教育の本質的なところではないかというふうに思います。

次に、少しスタンスがずれるかもしれませんが、今の人づくりというお話の中で特に齊藤委員さん、星山委員さんから出た専門性ということ。社会教育が求める専門性というのは、人を見付けたり、集めたり、つなげていくということであると。まったく賛同しているわけですが、そうしたときの専門性というと、これまでの話では市町村教育委員会が主として地域に関わる人づくりということで、国、県、教育事務所などを含めた教育行政の中で人づくりを仕掛けていけるような専門性をいかに育てていくか。もちろん市町村のそういったこともございますでしょうが、県とか教育行政の中でも考えていかなければいけない大事なことなんだと思いながら聞いていました。

これまで何度か、社会教育主事の活躍とか社会教育主事の専門性というお話が出たと思います。私たちのこれまでの会の中でも、たとえば「何々担当という市町村職員の方が大変大事である」と。「親身に相談されなかった」とか、「本当に一生懸命に相談に応じてくれた」「アドバイスされた」という話も出てきます。いわゆる行政、社会教育主事を一つのキーワードにした話なども出ておりました。その辺について、人材育成という観点からの委員の皆様方の御意見・お考えがあれば、聞かせていただくと有り難いと思います。

前回、何人かの派遣社会教育主事に発表していただきました。その中で、自治法派遣ということでさまざまな苦勞をされて、成果があったとか、生涯学習審議会答申の中にも、東日本大震災から学んだことの一つとして、公民館の役割と重要性の再認識ということが掲げられております。社会教育主事の今後の方向性。この場で方向性を出すということではないのですが、その辺は避けては通れない気がしていたんです。派遣社会教育主事はなくなったということ、他方で、自治法派遣の方が大変活躍をしていることなどのお話がありました。その辺のことにつきまして、委員の皆様から何かお考え等があればと思っていました。

(事務局；菅原社会教育専門監)

・では、私のほうから、その辺りのことを少しお話ししたいと思います。

派遣社会教育主事制度につきましては、昭和49年から、市町村の社会教育主事の育成や社会教育行政の活性化のために、多いときには30人以上の派遣社会教育主事を各市町村に派遣しておりました。平成10年に国庫補助がなくなったということからかなり多くの都道府県で廃止になり、私ども社会教育担当としては継続ということをお願いしてまいりましたが、残念ながら昨年度をもってその制度はおしまいになりました。

そういう中で、震災復興の必要性が出てまいりました。マンパワーが社会教育のために必要だと。特に沿岸部の市町村の現状を見ますと、社会教育の面からも、復興という視点からも必要だということがありまして、現在、13の沿岸部の市町に派遣をしております。ただし、これは従来の派遣社会教育主事とは違う地方自治法の派遣職員でございますので、市町村で人件費をお支払いいただくという制度のものでございます。現時点では震災復興特別交付税で、つまり応援職員の方々の人件費は国のほうから手当てされますので、その制度を活用して人材を派遣するというところで平成24年から始まっております。

昨年度、集中復興期間が切れるのと同時に予算がなくなるかもしれないということでしたが、向こう5年くらいは継続される方向だということのようでございます。県としては震災復興には、地域づくり、コミュニティの再編を進めることが不可欠であり、社会教育が必要だということで、町村の要望に応じて派遣をしているということでもあります。そういう震災復興の形が一段落したところで、この制度も終了する可能性があります。

一方で、社会教育主事の有資格者、つまり社会教育主事講習に参加している教員は年々増えています。ですから、養成はしているんですが、その方々が社会教育主事になる機会が減っているという現状がございます。学校教育の視点から申し上げますと、社会教育を経験した方が学校に戻って地域と非常にうまくつながっているということがよく言われています。そういう方々が学校の世界にまったくいなくなるのは、学校として地域とつながる力がかなり下がってくるという危惧がございます。任用先を何とかしたいという思いがあります。

また、家庭・地域・学校が一体となつてということでしたけれども、文部科学省から出された計画はまさにそういう計画になっております。各学校に地域連携担当教職員を配置し、学校の中で地域とつながる役割を担う、学校内のコーディネーターみたいな役割をします。さらに、学校はコミュニティスクールを目指していくということで地域が連携し、一つの目的を持って子どもたちを育てる。それを地域づくりにもつなげていきたいと思いますという考えになっております。

その地域学校連携教職員という立場になる人は、社会教育主事の資格を持っているとか、向いた方とか。社会教育主事講習を受けた有資格者が望ましいということも答申にもあるものだから、私どもとしては、今度は社会教育主事という任用にならなくても、社会教育主事という方向性を持った仕事をする学校の中の職員が増えるということを期待している

ころであります。

そのような中で、社会教育主事に求められる専門性につきましては、コーディネート力とか企画力とか。時代が多様化しているものですから、本当にさまざまなものがあるというのが現状であります。でも、一番大切なのは、人と人をつなぐ力ではないかというふうに思います。県の社会教育主事としては、市町村の方が働きやすいような条件を整備したり、いま必要なこと、中長期にわたって必要なことをプランニングして市町村にお示ししたりする。そういう専門性が求められているというふうに思っております。

以上です。

(澁谷議長)

・ありがとうございました。人づくりということについてたくさんのお話をいただいた中で、先ほど来専門性という言葉が出てまいりましたので、社会教育主事について触れさせていただいたところでした。

ちなみに、これは一つの話提供になります。

先ほど来、地域にはたくさんのいろんな人がいる、多様な人材がいるということなどのお話でしたが、気になっていたのは宮城県の社会教育協会という団体でございます。これは社会教育主事有資格者の方々、上は80歳から現職の方、生涯学習課の職員の方々にも入っていただいている会です。その会の各地区に登録されている方々を数えてみたら、843人いました。実際に843人全員が何かするとかいうことではありませんが、少なくともそのうちの半分くらいは、社会教育主事の資格を持って何らかの活動をやってきました。学校の教員が多いんですが、そういった方々が各地域に散らばっています。先ほど来、いろんな地域の人材うんぬん、人を探すと見付けるとか。そういったときに、うまく絡める。その辺も人づくりを考えると、一つの手立てとしてもいいのかなと思ったりしておりました。

とりとめもなく話してしまいました。どうぞ、まだ時間がございますので……。

ホワイトボードのほうに、これまでのお話をまとめていただいているようです。まだ時間がございますので、そういったものを眺めながらまたお話をさせていただくと。

(事務局；上原社会教育支援班長)

・皆さんから出されたものをぶっつけで整理していますので、非常に雑なものではあるのですが……。

今回、方向性は「人づくり」ということで、それが地域づくりに何らかの形につながるだろうというお話だったかと思います。そこで社会教育の役割というのが入ってくると思うのですが、それを問い直さなければいけないと。本質的なものとか、専門性が若干失われつつある。再構築する必要がある。逆に、社会教育の専門外のニーズが出てきていると。多様性を理解して整理していくことで、改めて人づくりとか地域づくりを考えていくというよ

うなお話だったと思います。

その中で出てきたものは、プログラムとか、仕掛けとか、意識付けとか、アプローチとか。要は、働きかけ方が一つキーワードとして出ていたと思います。それをどうするかというと、世代を超えてとか、点であるものを線でつなぐとか。地域住民ひとりひとりがその力を持っているとか、活動による広がり、つながり、循環、個人の専門性を活かすとか。その迫り方と、実際に地域の中にいる人そのものの持っているものが出てきたかと思います。それから仕組みをつくっていくと。

また、もともとの拠点、どこでそれをやるかということで公民館という話が出てきました。出会いの場とか、地域づくりの場であるとか、人づくりの場なのですが、多様化しているのでそれを整理する場であるのではないかということ。それから、団体活動の場も必要になるのですが、多様化している以上、公民館とか社会教育施設という拠点は担い手の一部でしかないんだという理解かと思っています。

では、大きく考えていった場合に、社会教育の概念の外の要因をどう受け止めるかということがあると思うんです。社会教育委員の会議ですので、社会教育の専門性の中で可能なことは何なのだろうかということ踏まえて、誰がそれを担うのか。社会教育の担い手として社会教育主事の専門性、存在のお話があったと思いますが、トータル的に見ると見た目が分かりやすいテーマがいいと。そこに落ち着いたと思っています。

キーワードとしていろいろ出てきていたと思います。私の整理がうまくできていないのですが、いただいた意見をこんなふうに分けてみました。

(澁谷議長)

・ありがとうございました。大変分かりやすくまとめていただきました。

補足とか確認する意見があれば、出していただいて……。

改めて私のほうから確認いたしませんか、テーマは、確かに見た目が分かりやすいテーマがいいと思います。

キーワードとしては、人づくり、地域づくり、公民館、あるいは、社会教育が出てきている気がします。

(坂口委員)

・人づくりというのはキーワードに入れてほしいと思いますが、見た目でも分かりやすいというのも……。中身が分からないといけないと思う。人とは何を指すか。これは社会教育主事も指すと。そういう人たちも指すという捉え方にしたほうがいいのではないかと思います。

(澁谷議長)

・人づくりの対象です。地域の方々、住んでいるの方々も対象ですが、当然、社会教育行政に関

わる人も含んでいると。

(坂口委員)

- ・ そうです。全部含んでいる。そうじゃないと、うまくいかないのではないのでしょうか。

(澁谷議長)

- ・ そうですね。市町村の担当の方ももちろん含むと。人ですからね。

(坂口委員)

- ・ 人の塊であってほしいと思いますけど。

(佐々木淳吾委員)

- ・ 先ほど来、皆さんの声を聞いていて、私はもう一步踏み込む。人をつくった、あるいは見つけてきた、そこをつなぐというようなキーワード。人をつなぐことによって地域づくりにつながっていく。つなぐというキーワードも入れたらいいというふうに……。

(澁谷議長)

- ・ つなぐ。

(田中委員)

- ・ 前の3回のテーマが、「子どもを育てる環境づくり」「地域をつくる子どもたち」とか、「子どもの参画が地域・学校・家庭をつなぐ」ということだったので、子どもだけに絞らないでテーマをつくったほうがいいと思っていました。

それから、前回の会議の派遣社会教育主事の方のお話を聞いていると、派遣社会教育主事の方は沿岸部に派遣されているだけあって、震災からの復興とか、震災からもう一回地域の社会教育や地域の活性化を構築するのにどうしたらいいのかというようなことを大分お話しされていました。それに、あんなに大きな震災があったのに、テーマの中に入らない、関連させないのもどうかというふうに思っています。今まで同じようなことを、同じ地区で何回もやっている。生涯学習審議会の「東日本大震災を乗り越えて」という資料が入っていましたが、人づくりを構築のために考えることの中に、震災の地域、一回崩壊したところをどういうふうにまた組み立てていったか、再生していったのかということが材料として入ってくる。どういう6年間の過ぎたのかということヒントにしていく。そういうことが入ってもいいような感じがしました。

(澁谷議長)

- ・ テーマに入れる入れないはまた別として……。

(田中委員)

・はい。いろいろ調査したり,調べたり,考えていく中で,そういうものが入ってもいいのかなど。

(澁谷議長)

・私自身は内陸のほうに住んでいて,大きな被害もなく,今はまったく影響なく生活しています。たまにニュースとかで見たり聞いたりしていて,震災の被害ということは頭の中にはあったものの,この間,震災に遭ったところに派遣されている先生方,あるいは該当する事務所の先生方のまだまだ先に進んでいないというお話を伺って,自分自身の認識のなさを非常に反省したところでした。

この間,そういったお話を聞いたときに,メインのテーマに「震災」あるいは「何とかかんとか宮城」というのを入れることができたらどうなのかと思いました。メインのテーマでなくても,サブテーマあるいは項目の中に「震災を受けて,いまこれこれこういうことをやっている方々についてのエール」といったようなことに触れられる1項目があればということ,この間,新ためて思った次第でございました。

その辺,いかがでしょうか。メインのテーマに入れる入れないは別として,私たちのまとめの中にはぜひ入れたいと。入れなければならないということ,この間,感じたところです。

よろしいですか,そのことにつきましては。

(坂口委員)

・それを暗ににおわせるような意味で,「つないでつむぐ」みたいな言葉を入れていくというのも一つあるかと思います。「つないでつむぐ」,新しいものをつくっていきましょう。言葉の遊びです。

(澁谷議長)

・言葉は大事ですから。

はい,どうぞ。鈴木孝三委員。

(鈴木孝三委員)

・今日の話を知っていると,最初に出てきたのは地域を支える人材育成。つまり人です。これは企画する人,参加する人,参画する人,協働する人。そういう人がここで言う人材だと思います。

もう一つ,今日の話し合いの中で感じたこと。人づくりというのは,そのような人材を発掘して,つないで,交流させること。今,坂口委員がおっしゃった「つむぐ」ということで

もいいと思います。発掘して、ネットワーキングして、交流していけるように支援する。それが人づくりなのではないかというふうに感じてきました。

以上です。

(澁谷議長)

・ありがとうございます。

佐々木委員さん、何か意見はございませんか。

(佐々木淳吾委員)

・いろんなことが出てきていて、なかなか……。

言葉を入れるかどうかはわからないけれども、震災があつてまだ6年しか経っていない宮城県においては、田中先生がおっしゃったように震災の観点が入るのは間違いない、大事なことであると思います。

また刺激的な言い方になってしまうかもしれないんですけども、地域における幹事さんをどれだけ育てられるか、見つけ出せるか、掘り起こせるかという話なんだと思うんです。忘年会の季節だからじゃないですが、そんなことを思っていました。付け加えさせていただきます。

(澁谷議長)

・まさしくそうですね。

(坂口委員)

・それと関わらなくても、自分たちもできるんだと思える人をつくっていければいいと思うんです。今やっている人だけでなく、今全然やっていない人も「こんなことでいいんだ」みたいな感じでやっていける。そういう人たちが1人でも多くできる。

発散させるのは簡単だけど、まとめが難しいですね。

(坂口委員)

・ホワイトボードがあと5枚くらい持って来ないだめだ。

(澁谷議長)

・キーワードとして出たことは、つなぐとかつむぐ、あるいは地域、人づくり、震災というふうなことです。ここからは言葉をどうつないでいくかということになってくるのでしょうか、その辺が得意な田中先生、何かないですか。

(田中委員)

・得意じゃないですよ。(笑)

いま佐々木さんが言ったように、幹事さんをつくる。地域にいる人たちに声を掛けられる、幹事さんがいれば、技を持っている人を結構発掘できると思う。その声の掛け方とかの工夫。どういう工夫でやっていけば人数が増えてくるか、ということではないかと思います。

(澁谷議長)

・この場でテーマをまとめて出さないと言われても困ると思います。時間も押し迫ってきました。委員さんの中でどうしてもこれだけは言っておきたいとか、触れられなかったこと、実際にテーマをまとめていく作業の中で、このことだけは外さないで入れるべきだったようなことはございませんか。

はい、どうぞ。

(齊藤委員)

・おそらく、人づくりであったり、地域づくりであったり、つなぐ、つむぐ。横文字で言えば、コーディネートとかネットワークとか。そういう言葉になってくるんだと思うんです。それで、時代情緒として震災がある。

つなぐ、つむぐ、ネットワーク、コーディネート……。言葉は何でもいいんですけども、時間をかけてというか、丁寧に、関係者の合意形成を図りながら。そういう部分が社会教育の理念というか、目指すべき像としてもう一つあるのだと思うんです。時間を掛けてやっていく。即効性があることとはまた違う形でやっていく、積み上げをしていく。それを言葉としてどういうふうに表示するかというのは非常に難しいことだと思うんです。裏のメッセージかもしれません。上辺だけのものではなくて、時間を掛けながら、関係者の説得・納得を作り上げていく、積み上げていくというようなニュアンスが入ってくると、それらしいテーマ、理念、規範みたいなもの、社会教育とはこういうものなんだということが入ってくると思います。

(澁谷議長)

・ありがとうございます。

まったくおっしゃるとおりですね。事務局はいま、非常に悩み、苦しんでいます。いったいどうしたらよいかということだと思います。

(坂口委員)

・文字制限はあるんですか。

(事務局；吉田社会教育支援班課長補佐)

- ・ ないです。

(佐々木とし子委員)

- ・ メインに副題ということで……。

(澁谷議長)

・ では、だいたいここで。今日のところはテーマについて「これこれ」というところ、一つにまとめ上げることはできないと思います。テーマにつきましては、僭越ではございますが議長と副議長に現段階で預らせていただきまして、事務局と協議の上、次の段階に向けて案を示していきたいと。私どもが宿題を預らせていただくということで、今日の場はよろしいでしょうか。

それでは、この次の会議の御案内と併せて、事務局からお知らせいただきたいと思います。

失礼いたしました。続いて、ハの「報告」に入ります。委員の皆様から何か御報告はございませんか。よろしいでしょうか。

事務局からの報告はございますか。

(事務局；吉田社会教育支援班課長補佐)

- ・ ございません。

(澁谷議長)

- ・ それでは、以上で本日の「議事」を終了いたします。

(司会；上原社会教育支援班長)

・ 「議事」のほう、大変ありがとうございました。それでは、「連絡」に入らせていただきます。

まず、次回の開催についてお願いします。

(事務局；吉田社会教育支援班課長補佐)

・ この間、アンケートを取らせていただきまして、最大公約数的なところで次回は2月14日に予定したいと思います。午後だと参加できるという方が多く、ちょうど会議室も開いていました。いまのところ、自治会館2階の208会議室で行う予定でございます。年明け早々にでも御案内を出せればと思っておりますので、御協力をよろしく願いいたします。

それから、議長からお話しいただいたように、今回はテーマ設定というところまではいっておりません。議長さん、副議長さんの御指導をいただきながら、こちらでテーマ案を御提

示できればと思っております。会議の案内とともにテーマ案を提示させていただくという方向で進めさせていただきたいと思っておりますので、御協力よろしくお願いたします。

(司会；上原社会教育支援班長)

・前回、第3回会議の会議記録につきましては、現在、調整中です。公開までもう少しお時間を頂戴したいと思いますので、御了承いただきたいと思います。

そのほか、何か連絡等はございますか。

(事務局；吉田社会教育支援班課長補佐)

・では、事務局から2点、連絡を申し上げます。

1点目、「平成27年度市町村別社会教育事業実績調査報告書」をお手元に配らせていただきました。今後の審議内容によってこの冊子を活用することも想定しておりますので、ぜひ御覧いただきたいと思います。

2点目でございます。美術館のチラシをお配りしております。ルノワール展のチラシで、招待券も配付しております。年明け1月14日土曜日から美術館で開催いたしますので、ぜひ足をお運びいただき、御覧いただければと思っております。

以上でございます。

(司会；上原社会教育支援班長)

・それでは、以上をもちまして第34次(第4回)宮城県社会教育委員の会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。